



第18回常任理事会

日時 平成19年12月11日（火）18：02～20：11
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、柳山・山本・北野・渡辺・三戸・目黒・原田・藤井・藤原・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、高木・水元・中村各監事（事務局：島影事務局長ほか12名）

協議事項

第1号 平成19年度道医会費減免追加申請に関する件（深澤常任理事）

〈決 定〉

道医会費減免申請者一研修医3名、高齢1名、合計4名（免除額40,000円）の免除を承認決定。

第2号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（渡辺常任理事）

〈決 定〉

申請のあった日医生涯教育講座15件、道医認定生涯教育講座20件、合計35件を承認する。

第3号 第5回全理事会の議案に関する件

（深澤常任理事）

〈決 定〉

12月15日（土）午後4時から札幌パークホテルで開催する全理事会の提出議案を決定。

報告事項

1. 審査委員懇談会[11月30日（金）] について

（西里常任理事）

総勢102名の参加のもと、支払基金、国保連合会、労災の各審査委員を交えた懇談会を開催した。

2. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会[11月30日（金）] について（北野常任理事）

日医・唐澤会長の挨拶の後、平成19年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の当番である沖縄県医師会より報告が行われ、引き続き、平成20年度担当として千葉県医師会から挨拶があった。続いて、栃木県・富山県・奈良県・鳥取県各医師会から勤務医活動の報告があり、その後、「医療崩壊に対する取り組み」「医師会の組織力強化」等について協議し、活発な意見交換が行われた。

3. コーディネーター養成講習会[12月1日（土）] について（北野常任理事）

宝住副会長の挨拶の後、「女性医師バンクの現状」「職業紹介事業の留意点」「労働法制」「医師の仕事の種類」「コーディネートの際の留意点および今後のバンク事業」等についての講習と質疑応答、意見交換会が行われた。

4. 家族計画・母体保護法指導者講習会[12月1日（土）] について（藤井常任理事）

寺沢日産婦医会長の「地方病院の医療崩壊と産科の崩壊」と題する講演と、「健やかな妊娠・出産について考える」と題して、(1) 健診の充実について、(2) 未受診妊婦への対応について、(3) 周産期医療体制の整備について、(4) 産婦人科医師全員で盛り立てていこう—無過失補償制度—について4名のシンポジストによりシンポジウムが行われた。

5. 北海道ブロック両院議員会[12月5日（水）・東京] について（三宅副会長）

当会の要請に応じて自民党道連会長の今津衆議院議員のお世話により、標記会議が5日正午から自由民主党本部会議室にて開催された。議員側は衆議院議員6氏、参議院議員2氏が、当会側は同日午後の「国民医療を守る決起大会」に参加する長瀬会長他役職員15名が出席した。会議冒頭に舩添厚生労働大臣が出席し、「北海道は広く、過疎の問題や医師不足の問題等、特に深刻であり、その点も踏まえてしっかり対応したい」等の挨拶があった。今津道連会長、長瀬会長の挨拶のあと、当会からの要望として、診療報酬改定（直江常任理事）、控除対象外消費税問題（橋本常任理事）、日本の医療の現状（藤原常任理事）について現状説明と要望を行い、若干意見交換を行った。最後に石崎衆議院議員から「本道議員全員で一致して頑張って活動したい」との言葉があり閉会した。この後、細田幹事長代理、園田政調会長代理、二階総務会長の各執務室を訪問し陳情した。

6. 国民医療を守る決起大会[12月5日（水）・東京] について（藤原常任理事）

国民医療推進協議会（会長：唐澤日医会長）の主催によりホテルニューオータニで、一般約2,500名、国会議員319名（代理を含む）の参加のもと開催され、「地域医療を守る医療費の確保」他4項目を決議した。

7. 日本の医療を守る道民協議会第6回総会[12月6日（木）] について（深澤常任理事）

長瀬同協議会会長の挨拶後、議事(1)「役員の変更について」は、小職から役員任期は11月23日で満了しているが、引き続き所属団体代表が務める役員に就任いただくこと、2つの団体で役員異動があることを提案し了承された。次いで「地域医療崩壊の危機」をテーマとするパネルディスカッションでは6団体からの厳しい現状を含めた話題提供を受けて若干質疑応答を行った。続いて、12月5日（水）東京で開催

された「国民医療を守る決起大会」について藤原常任理事が報告し、議事(2)「『医療を守る国民運動』の展開について」は、直江常任理事が運動の経緯と趣旨を説明し、あわせて5月16日開催の「日本の医療を守る緊急道民集会」で採択した決議につき、10月5日に北海道議会で『日本の医療と安心を守るための意見書』として採択し内閣総理大臣他主要5氏に送達されたことを報告した上で、改めて本協議会として医療の窮状とその是正を訴え決議文を作成し関係各方面に働きかけたいと提案し、原案どおり採択された。

8. 医療事故・紛争対応研究会カンファレンス[12月8日(土)]について(山本常任理事)

この研究会は、東京大学の有志が、医療事故・紛争・苦情の問題をはじめ、医療倫理、医療システムの問題に取り組み、安全・安心な医療の確保実践のため、日頃の研究に基づいた知識・技能の普及に努めており、年に一度、報告会を兼ねカンファレンスを実施している。今回は、「病院改革ー透明性確保に向けた職員の意識改革と紛争防止の様々な課題への取り組みー」をテーマに、事故の初期対応、事故調査、死因究明などについてシンポジウムが行われた。大学病院は、昔のイメージとは異なり、速いスピードで変革しているという印象を受けた。

9. 女性医師の勤務環境の整備に関する講習会[12月9日(日)]について(藤井常任理事)

長瀬会長の挨拶の後、日本医師会男女共同参画委員会・保坂シゲリ委員長から、「何故 今、女性医師・・・なのか?ー日本の医療の崩壊をくい止めるためにー」、次いで、大阪厚生年金病院・清野佳紀院長から「働きやすい病院づくりー子育て支援を中心としてー」と題し、それぞれ講演があり、その後、質疑応答が行われた。参加者は60名であった。

10. 日医各委員会報告

(1) 学校保健委員会[11月29日(木)]について(三戸常任理事)

文科省から学校保健における現状と今後の方向性について報告を受けたあと、日医会長諮問に対する答申書内容と、2月に開催予定の「学校医講習会」について協議を行った。

(2) 社会保険診療報酬検討委員会[12月5日(水)]について(榊山常任理事)

諮問(「診療報酬改定の影響とその対応ー平成18年4月改定ー」「現在の診療報酬における問題点について」)に対する答申書の最終とりまとめを行った。

(3) 救急災害医療対策委員会[12月5日(水)]について(目黒常任理事)

委員会報告書案について検討を行った。なお、「航空医療体制」の部分に広域な本道ではドクターヘリのほか、固定翼機を含めた搬送体制が必要であることを提案し、文言として盛り込

まれた。

(4) 医事法関係検討委員会[12月7日(金)]について(西里常任理事)

諮問事項「医師・患者関係についての法的再検討」の答申作成に向け、国による規制と医師の自律を中心に議論の整理を行った。

(5) 医療関係者対策委員会[12月7日(金)]について(三宅副会長)

「潜在看護師掘り起し対策」「平成18・19年度医療関係者対策委員会報告書(案)」等について協議を行った。なお、「准看護師課程カリキュラムへの単位制導入」また「看護教員養成講習会への通信制導入」について厚労省に対し要望書を提出した。

(6) 病院委員会[12月7日(金)]について(北野常任理事)

分担で執筆した原案について検討した。これをまとめ、明年2月に報告書として会長に提出する予定である。

11. 各部報告

(1) 第5回情報広報部担当理事会[12月1日(土)]について(藤原常任理事)

平成20年度の事業項目について検討した。テレビ会議システムは、運用を継続し、実施状況について詳細な検討を行うこととした。

12. その他

(1) 日本医師会 新テレビCM放送について(藤原常任理事)

日医が新たに作成したテレビCM3編を視聴した。テーマは「小児救急医療」「療養病床削減」「産業医」である。すでに12月5日から、道内ではHBCとUHBにおいて随時放映されている。

(2) 高速道路上の事故等におけるドクターヘリシミュレーション訓練[11月28日(水)]について(目黒常任理事)

北海道警察、岩見沢地区消防本部、東日本高速道路株式会社等の協力により、道央自動車道上り岩見沢サービスエリアを会場に千葉県以北では初めての訓練が行われた。

道総医協関連事項

1. 第2回運営委員会[11月29日(木)]について(三宅副会長)

地域医療専門委員会に、新たに「医療施設整備検討委員会」(仮称)を設置。地域保健専門委員会の検討協議事項に糖尿病対策が加わり、「循環器疾患対策小委員会」(仮称)が設置される。また、平成20年度から地域保健医療福祉推進協議会とともに組織および報償費の見直しをする予定である。

第5回全理事会

日時 平成19年12月15日（土）16：03～17：16
場所 札幌パークホテル 3階・パークホール
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、山本・渡辺・三戸・小山・目黒・原田・藤原・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、上埜・上西・城・沖・鈴木・増田・古屋・吉田各理事、高木・水元・中村各監事、飯塚顧問、伊藤議長、塩野副議長、樋口日医裁定委員、河西・山光日医代議員。
(事務局：島影事務局長ほか13名)

報告事項

1. 北海道ブロック両院議員会[12月5日（水）・東京]について（三宅副会長）

当会の要請に応じた自民党道連会長・今津衆議院議員のお世話により、標記会議が5日正午から自由民主党本部会議室にて開催された。議員側は衆議院議員6氏、参議院議員2氏が、当会側は同日午後の「国民医療を守る決起大会」に参加する長瀬会長他役職員15名が出席した。会議冒頭に舩添厚生労働大臣が出席し、「北海道は広く、過疎の問題や医師不足の問題等、特に深刻であり、その点も踏まえてしっかり対応したい」等の挨拶があった。今津道連会長、長瀬会長の挨拶のあと、当会からの要望として、診療報酬改定（直江常任理事）、控除対象外消費税問題（橋本常任理事）、日本の医療の現状（藤原常任理事）について現状説明と要望を行い、若干の意見交換を行った。最後に石崎衆議院議員から「本道議員全員で一致して頑張って活動したい」との言葉があり閉会した。この後、細田幹事長代理、園田政調会長代理、二階総務会長の各執務室を訪問し陳情した。

2. 国民医療を守る決起大会[12月5日（水）・東京]について（直江常任理事）

国民医療推進協議会（会長：唐澤日医会長）の主催によりホテルニューオータニで、一般約2,500名、国会議員319名（代理を含む）の参加のもと開催され、「地域医療を守る医療費の確保」他4項目を決議した。

3. 日本の医療を守る道民協議会第6回総会[12月6日（木）]について（深澤常任理事）

長瀬同協議会会長の挨拶後、議事(1)「役員の変更について」は、小職から役員任期は11月22日で満了しているが、引き続き所属団体代表を務める役員に就任いただくこと、2つの団体で役員異動があることを提案し了承された。次いで「地域医療崩壊の危機」をテーマとするパネルディスカッションでは6団体からの厳しい現状を含めた話題提供を受けて質疑応答を行った。続いて、12月5日（水）東京で開催された「国民医療を守る決起大会」について藤原常任理事が報告し、議事(2)「『医療を守る国民運動』の展

開について」は、直江常任理事が運動の経緯と趣旨を説明。あわせて5月16日開催の「日本の医療を守る緊急道民集会」で採択した決議につき、10月5日に北海道議会で『日本の医療と安心を守るための意見書』として採択し内閣総理大臣他主要5氏に送達されたことを報告した上で、改めて本協議会として医療の窮状とその是正を訴え決議文を作成し関係各方面に働きかけたいと提案し、原案どおり採択された。

4. 各部報告

(1) 総務部一定款施行規則第23条の無投票当選の取扱いについて（深澤常任理事）

当会定款第23条には「候補者の数が定数を超えないときは、投票を行わないで、議長が当該候補者をもって当選者と決定することができる。」と弾力的な言葉で結んでいることに鑑み、今後は議長に配慮いただき、議場で代議員の賛同、承認を得る取扱いとしたいと報告し、全理事会の承認を得た。

5. その他

(1) 日本医師会 新テレビCM放送について（藤原常任理事）

日医が新たに作成したテレビCM3編を視聴した。テーマは「小児救急医療」「療養病床削減」「産業医」である。すでに12月5日から、道内ではHBCとUHBにおいて随時放映されている。

承認事項

1. 外部各委員会等委員の推薦について（深澤常任理事）

10月開催の第4回全理事会以降に北海道等から依頼があり推薦した4件につき報告、承認。

協議事項

第1号 平成19年度道医会費減免追加申請に関する件（深澤常任理事）

〈決 定〉

道医会費減免申請者一研修医3名・高齢1名、合計4名（免除額40,000円）の免除を承認決定。

第2号 北海道医師会職員給与規程等の一部改正に関する件（深澤常任理事）

〈決 定〉

人事院勧告に基づき北海道人事委員会が毎年改定する給与表を平成20年4月から採用すること、併せて職員給与規程別表第2の乙「職務の等級分類基準表」を改正することと決定。

第3号 その他

(1) 平成20年新年交礼会の開催に関する件（深澤常任理事）

〈決 定〉

平成20年1月5日（土）午後6時30分から札幌グランドホテルで開催と決定。

(2) 北海道立子ども総合医療・療育センター（施設愛称：コドモックル）について

上埜理事より、本年9月にオープンした本セン

ターが、患者の受け入れ態勢がハイリスクの紹介患者のみに終始しているので、北海道に対して広く受け入れるよう要請してほしいとの要望があった。

道総医協関連事項（三宅副会長）

1. 第2回地域保健専門委員会[10月16日（火）かでの2・7]

本道のがん診療拠点病院の国への推薦は調整がつかず断念した。二次医療圏ごとの拠点病院は従来の8病院を更新することとなった。

2. 第2回計画特別委員会[10月18日（木）道庁赤レンガ庁舎]

北海道医療計画骨子案について、21医療圏とし、章立てなどを検討した。

3. 第2回救急医療専門委員会[11月14日（水）かでの2・7]

第三次救急医療体制の整備と航空医療体制のあり方について協議した。

4. 第2回地域医療専門委員会[11月19日（月）道自治会館]

地方・地域センター病院等の整備指針、在宅医療ケアについて検討した。

5. 第3回計画特別委員会[11月20日（火）道庁赤レンガ庁舎]

「新しい北海道保健医療福祉計画」（仮称）の骨格案、「北海道医療計画」（仮称）の素案（たたき台）について検討した。

6. 第2回運営委員会[11月29日（木）道庁別館]

医療施設整備検討委員会（仮称）、循環器疾患対策小委員会（仮称）の新設、糖尿病対策を検討協議事項に追加することを了承した。

7. 第3回地域保健専門委員会[12月12日（水）かでの2・7]

北海道がん対策推進計画（仮称）素案（案）について検討した。

2名、施設名等変更3名の申請者を指定医師とする。

第2号 日本医師会認定産業医の認定申請に関する件（小山常任理事）

〈決 定〉

認定要件を満たした新規52名、更新39名の申請を承認し、日医へ推薦する。

第3号 日本医師会認定健康スポーツ医の認定申請に関する件（小山常任理事）

〈決 定〉

認定要件を満たした新規16名、更新9名の申請を承認し、日医へ推薦する。

第4号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件（渡辺常任理事）

〈決 定〉

申請のあった日医生涯教育講座45件、道医認定生涯教育講座36件、合計81件を承認する。

第5号 その他

(1) 平成20年1月行事予定に関する件

〈決 定〉

提案どおり承認決定。

(2) 平成20年度予算関係各部担当理事会の開催日程に関する件

〈決 定〉

提案どおり承認決定。

報告事項

1. 都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会[12月13日（木）]について（山本常任理事）

日医・唐澤会長より挨拶の後、日医医師賠償責任保険の運営に関する経過報告、群馬県・沖縄県の両県より医療事故紛争対策状況の報告があり、最後に西島参議院議員から、診療行為に係る死因究明制度案についての説明と活発な質疑が行われた。

2. 全国医師会共同利用施設（臨時）総会[12月15日（土）]について（北野常任理事）

日医・宝住副会長が日医会長挨拶を代読後、田中滋慶応大学教授が、「医療費決定要因の変貌―新たな社会保障哲学を求めて―」をテーマに特別講演を行った。その後、公益法人制度改革に関する担当理事からの報告に続き、「医師会共同利用施設の将来展望」についてのパネルディスカッションが行われ、「医師会病院」について函館市医師会の山会長がパネリストとして発言した。

3. 救急医療対策部会小委員会[12月17日（月）]について（目黒常任理事）

小児救急地域医師研修会等の実施状況を報告し、その後、明年1月27日（日）に開催する救急医療対策部会全体会議ならびに救急医療研修会等の内容等を協議した。

4. 特定健診・特定保健指導に関する研修会[12月19日（水）]について（三戸常任理事）

道保健福祉部健康推進課・山本主査より制度の概要について説明を受けた後、小職より特定健康診査・

第19回常任理事会

日 時 平成19年12月25日（火）18：33～21：44

場 所 北海道医師会館9階・理事会室

出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、柳山・山本・北野・渡辺・三戸・小山・目黒・原田・藤井・藤原・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、高木・水元・中村各監事

（事務局：島影事務局長ほか12名）

協議事項

第1号 母体保護法指定医師の指定に関する件

（深澤常任理事）

〈決 定〉

12月19日の審査委員会で指定「可」とされた新規

特定保健指導に関する医師会の役割として、健診の実施についてはできるだけ協力できるような体制を考えていただきたいこと、アウトソーシングを受託する場合、各種届出が必要となること、また、それに対する方策についても検討いただきたいとの説明を行った。

5. 平成19年度第4回北海道保険者協議会[12月20日(木)]について(長瀬会長)

保険者側の代表保険者が健保連となったこと、ならびに集合契約に向けた準備状況について報告の後、集合契約に係る価格、標準的な電子データの取扱い、在宅保健師の登録・斡旋事業等について検討が行われた。

6. 早稲田大学紛争交渉研究所シンポジウム[12月23日(日)]について(宮本副会長)

「医療崩壊と司法の論理」をテーマに医療側と司法側のシンポジストからそれぞれ説明が行われた。特に、医療事故の論理と事実認定について司法側と医療側の格差が歴然とあり、溝を少しでも埋める必要がある。最近は、「因果関係こじつけ型」の判決が多くなっている。医療側の意見が通らないのでは、萎縮医療につながることも司法側には理解してほしいという意見もあった。

7. 京都府医師会との懇談会[12月23日(日)]について(深澤常任理事)

京都府医師会からの依頼を受けて、「後期高齢者医療制度」をテーマとして懇談を行った。当会側の話題提供を担当した藤原常任理事が提出した11月28日開催の中医協診療報酬基本問題小委員会資料「後期高齢者医療の具体案」について議論が沸騰した。その後、和やかな会食懇親を行った。

8. 都道府県医師会特定健診・特定保健指導連絡協議会[12月24日(月)]について(三戸常任理事)

厚生労働省から提供されるフリーソフトの進捗状況について、その制作を外部委託中であり、1月中旬頃完成予定であること。代行入力業務について、参画を希望している業者より、その方法・手順等を、日医総研より「日レセ」ユーザー対応特定健診ソフト(ORCA対応)と、集合契約・支払基金等への対応等について説明がなされた。本道より医師会役職員等合わせて22名の参加があった。

9. 日医各委員会報告

(1) 生涯教育推進委員会[12月12日(水)]について(渡辺常任理事)

報告事項では、新医師臨床研修制度について、21年4月を目途に研修病院の指導医にワークショップの受講を必修として義務付けてはどうかとの要望がでていることなどの報告があった。また、協議事項では、諮問関連事項に関する日医生涯教育カリキュラム改訂について、総合医認定のためのカリキュラム案という形で策定された。内容は非常に難しく、種々意見交換

が行われ、今後この案を含め、未だ決まっていない履修方法、認定方法などをさらに検討していくこととなった。そのため、本年度の都道府県医師会生涯教育担当理事連絡協議会については開催しないことを決定した。

(2) 労災・自賠責委員会[12月12日(水)]について(目黒常任理事)

冒頭、「R I Cの労災診療費審査点検事務の補助に係る試行の現状と、次年度以降の審査点検事務委託」について、厚労省労働基準局労災補償部補償課長より説明がなされた。続いて会長諮問(医療保険制度下の労災保険、自賠責保険のあり方)に対する答申を取りまとめたことから、塩見委員長が唐澤会長に答申書を提出した。

(3) 健康スポーツ医学委員会[12月13日(木)]について(畑副会長)

会長諮問「地域における健康スポーツ医活動の推進—特定健診・保健指導における健康スポーツ医の役割を中心として—」に対する答申案につき検討した。

(4) 自浄作用活性化委員会[12月21日(金)]について(深澤常任理事)

明年2月の答申に向けてまとめた内容について、さらに検討を行った。

10. 外部各委員会報告

(1) 北海道小児救急医療体制整備推進協議会[12月13日(木)]について(三戸常任理事)

小児救急医療拠点病院および輪番制参加病院を対象に実施した小児救急診療体制に係る勤務状況に関する調査結果等を報告した。協議では小児救急電話相談報告書(素案)等について検討を行った。

(2) 道民の健康づくり推進委員会地域・職域連携専門部会[12月14日(金)]について(三戸常任理事)

道保健福祉部健康推進課より、「第二次保健医療福祉圏域における取組状況」「事業者を対象とした特定健康診査・特定保健指導の実施に係る研修会」「糖尿病等生活習慣病予防のための人材育成研修」について報告を受けた後、「受診率向上のための健診機会の確保」等について検討し、あらゆる手段を用いて制度の広報等をしていくこととなった。

(3) 第3回新しい北海道歯科保健医療推進方策策定委員会[12月17日(月)]について(藤井常任理事)

新しい北海道歯科保健医療推進方策(仮称)の素案について、その内容について検討を行い、藤森委員長(道歯科医師会)と道とで整理を行い、次回委員会にて再度検討することとした。

(4) 第10回北海道医療対策協議会自治体病院等広域化検討分科会[12月18日(火)]について

(宮本副会長)

「自治体病院等広域化・連携構想（素案）」を協議、了承された。最終案には、市町村財政の状況を明らかにし、病院経営の財政負担について、自治体病院を持たない自治体を含め地域全体で支える負担のあり方を盛り込む。あくまで地域が主体となって議論し、決定して欲しいとして、1月以降開催される各地域の検討会に委ねることとした。

(5) 第2回北海道医療費適正化計画検討協議会[12月19日(水)]について(畑副会長)

第1回協議会において、北海道は地域特性があるので、全国レベルでの統一的計画には当てはまらないとして、療養病床数を含め、修正を要望していた。今後のスケジュールは、1月にパブリックコメントを求め、計画の最終原案を決定し、公表の運びとなる。医療側の意見は一通り述べたつもりである。厚労省の話では、全国的に足並みが揃っていないとのことである。

(6) 第8回北海道医療対策協議会地域医療を担う医師養成検討分科会[12月21日(金)]について(長瀬会長)

地域卒入学者が地域に派遣可能となるまでの間の短期的対策としての大学院生および初期・後期臨床研修医を対象とする貸付金制度と、道内医大の定員増について協議した。また研修医マッチング状況について報告があった。

11. 各部報告

(1) 第4回医療保険部担当理事会[12月20日(木)]について(西里常任理事)

平成20年度の事業項目と予算について検討した。引き続き「処方せん偽造防止対策への協力」「診療報酬請求書等の提出協力日の廃止」に関

する周知について協議した。また「生活保護法に関する証明書等の料金」に関し意見交換した。

(2) 第2回医療関連事業部担当理事会[12月20日(木)]について(北野常任理事)

平成20年度の事業項目および予算等について検討を行い、「開業の動機と開業前の就労に関するアンケート調査結果」と「勤務医のアンケート調査」について協議した。

道総医協関連事項

1. 第3回地域保健専門委員会[12月12日(水)]について(畑副会長)

北海道がん対策推進計画の素案について、協議を行った。なお、本計画案は1月にパブリックコメントを募集し、その後、文言等を整理して成案となる予定。

2. 計画特別委員会[12月18日(火)]について

(宮本副会長)

20年度から始まる「北海道保健医療福祉計画（仮称）」「北海道医療計画（仮称）」の素案について協議した。「北海道医療計画（仮称）」の中で、脳卒中（急性期・回復期）と急性心筋梗塞（急性期）の医療機能および医療機関名の公表基準を示すことが了承された。2計画ともに1月以降、道民等へのパブリックコメント、地方意見を聞く会（道内6カ所）を経て原案作成、道議会へ案を提示し、医療審議会への諮問の後、3月末に計画決定となるスケジュールが示された。

3. 第3回救急医療専門委員会[12月19日(水)]について(目黒常任理事)

第三次救急医療体制の確保に関する基本的な考え方についての報告の後、本道における航空医療体制のあり方について協議を行った。

新規指定医療機関

●平成19年12月15日

医療機関名称	所在地・電話番号	開設者・管理者氏名
くにちか内科クリニック	006-0851 札幌市手稲区星置1条4丁目7-2 ☎011-688-1133	國近 啓三
医療法人社団共生会 江別醫人館診療所	067-0012 江別市2条5丁目9-2 江別みらいビル2階 ☎011-384-7000	医療法人社団共生会 阿部 毅